



《 北米産大豆 》

12/13年 米国大豆生産予測・需給予測

10月11日の米国農務省発表によれば、米国の生産量は前月予測から単収・収穫面積の改善により上方修正となり、先月発表の7,170万トンから8.5%増(610万トン)の7,780万トン予測となりました。前年対比では7.5%減(前年生産量は8,420万トン)となり、米国の期末在庫率は前月から0.1ポイント増の4.4%となりましたが、前年対比では1.0%減(前年5.4%)であり、依然として低い水準となっています。

また世界の生産量は、ブラジル、アルゼンチンの両国で作付面積増加見込みにより前年対比で11.0%増の2億6,428万トン、期末在庫量は前年対比で5.1%増の5,756万トンとなり、期末在庫率は前年対比で0.6ポイント増の22.2%を示す結果となっています。



《 中国産大豆 》

中国大豆生育状況

弊社仕入先より、9月30日現在の中国大豆生育状況レポートが配信されました。それによれば、黒龍江省の各地域では収穫が始まった地域もあり、それらの地域では20~30%程度、作業が終了しているようです。また、まだ収穫の始まっていない地域に関しても、10月中旬ごろから収穫作業が開始される見通しです。



佳木斯地区生育状況

克山地区生育状況

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL: <http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>



《 国産大豆 》

国産大豆産地生育状況

全農みやぎ様より、JA登米・豊里地区の弊社契約栽培大豆「タチナガハ」の9月21日時点の生育状況レポートが届きました。

それによれば、草丈は約110cmとなっており、多少葉色が茶褐色に変わりつつあります。全体的に雑草は目立たず、丈が高い様子です。



《 トピックス 》

ブラジル農業の将来展望

農林水産研究所がこのほど開催した「ブラジルの農業とアグリビジネス」と題したセミナーにおいて、ブラジル国農牧食料供給省・国際関係局で国際関係分析官と大臣特別補佐官を勤めるファイ・サマルコス・ローラ氏によれば、ブラジルの大豆の輸出量は米国に次いで世界で2位だが、米国の深刻な旱魃で今年度は1位になるのではないかと予測しているとの事です。

同氏はブラジル農業の今後の展望について、農業開発に高いポテンシャルのある地域として「マトピバ地域」に着目しているとの事で、現在はブラジル中部の地域に農地が集中しているが、この北部、北東部に農業を広げていきたいとのこと。

以上を踏まえた上で、10年前まで受益国の立場であったブラジルが、今では国際協力を実施する立場となり、70年代に起きた食糧需給問題の際と同じように穀物を生産するパートナー・農地を探すことが必要とし、アフリカのモザンビークを対象に日本と三角協力を実施しようとしているとの事です。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL: <http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>